

〔第2回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

口からはじめるサクセスフル・ エイジングの新戦略

口腔疾患研究部

松下 健二 部長

2022年3月9日(水) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

「病自口入」とは、コロナ禍においてはますます実感する諺である。また、「禍自口出」というように、口腔は血管、消化管、気管等を介して全身の臓器とつながっており、歯周病を始めとする口腔病変が全身の重大疾患に影響を及ぼす。口腔と全身の関係の究明は、当研究部創設以来の重要なミッションである。一方、歯周病は加齢に伴って増加する疾患であるため、歯周組織の老化がその病態形成に関与する事が考えられるが、その詳細は不明である。我々は現在、長寿医療研究開発費の研究課題として加齢に伴う口腔の変化を病理組織学、免疫学、細菌学の視点から総合的・統合的に解析を行っている。また、その制御による新しい口腔の健康増進法の開発を目指している（21-6 口腔の老化制御を基盤とした新しい口腔機能の維持・向上法の開発）。本セミナーでは、老齡マウスおよび歯周細胞培養系から明らかになってきた口腔老化の実態と歯周炎との関連、口腔機能と低下と脳機能の関連について説明する。また、食品成分による口腔老化制御の可能性についても述べたい。

座長：四釜 洋介 副部長
連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)